2017年11月2日

グレートモデレーションか!?

大いなる安定

現在の世界経済の緩やかな成長とインフレ率の低位安定は、グレートモデレーション(大いなる安定)の再来かとの指摘がされています。

グレートモデレーションとは、2000年代半ばから2008年のリーマン・ショックに至るまでの間、株式や債券等の値動きが小さく市場全体が安定していた時期を指します。米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長(当時)が2004年にこのタイトルで講演したことで知られています。

グレートモデレーションへの安心感が株高を支える一因となっているのでしょうか。

続・アベノミクスに期待

先日、過去最長の16日連騰を記録した日経平均株価はさらに上昇を続け、昨日(11/1)も2万2,420円と前日比408円高となり、約21年4ヶ月ぶりの高値を更新しました。10月の衆議院選挙で与党が圧勝し、アベノミクスの継続期待が高まったことが上昇の主な要因です。それに加え、ソニーや東京エレクトロンなど日本を代表する企業の相次ぐ好決算が株価をさらに押し上げています。

足元の景気は堅調ですが、物価目標の2%には手が届かない状況です。人手不足にもかかわらず所得が伸びない環境が続いており、働き方改革が急務となっています。昨日発足した第4次安倍内閣の手腕に注目です。

好調な世界経済

先進国株式市場は底堅く、堅調な企業業績の裏付けがあり、株価は上昇傾向にあります。米国では、IT関連企業が特に好調でアマゾン、アルファベット(グーグル)、マイクロソフトの2017年7～9月期の決算はいずれも市場予想を上回り、株価は上昇しています。景気先行指数である購買担当者景気指数(PMI)や消費者信頼感指数は上昇基調が続いており、個人消費も伸びています。

新興国市場も堅調で、引き続き長期的な潜在成長率の高さに変わりがないとの見方です。先月行われた、5年に1度の中国共産党大会では短期的に相場に悪影響を及ぼす内容は見当たりませんでした。

インフレ率に関しては、中国で上向きつつあるものの、世界的に依然として中銀のターゲットを下回る水準です。原油価格の上昇など、インフレ率を上向かせる材料はありますが、当面はインフレ率の低位安定を予想しております。

しばらくはこの安定基調が期待できそうですが、過度の楽観視は禁物ですね。

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。